

各 位

News Release

「公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団」

令和5年度

地域の伝統文化分野 助成対象先を決定

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団（1991年6月設立・理事長関口憲一）では、地域の伝統文化（民俗芸能および民俗技術）の継承、特に後継者の育成を支援するため、昨年10月から令和5年度『地域の伝統文化保存維持費用助成』制度の助成対象候補を公募してまいりました。このたび応募85件の選考を終えて48件の助成対象を決定し、助成金目録の贈呈を行なうこととなりましたので、ここにお知らせいたします。

なお、本年度の決定を含めた本制度による助成件数の累計は、当財団設立以来1,400件になります。

【お問い合わせ先】

公益財団法人明治安田クオリティオブライフ文化財団

〒163-0633

東京都新宿区西新宿1-25-1

新宿センタービル33階

TEL. 03-3349-6194

FAX. 03-3345-6388

記

1. 公募方法と公募期間

都道府県の教育委員会または知事部局の担当課を推薦窓口とする要推薦制度の公募を、令和4年10月から令和5年1月31日まで行い、85件の申込を受付けた。

2. 助成対象

- (1) 地域の民俗芸能（民俗行事・民俗音楽を含む）の継承、特に後継者育成のための助成。
- (2) 地域の民俗技術（伝統的製作技術・衣食住に関わる生活技術・伝統工芸を含む）の継承、特に後継者育成のための助成。

3. 助成対象者の決定

選考委員会における選考審査（2月21日）を経た後、理事会の承認を得て決定。

【伝統文化分野選考委員】（敬称略）

委員長	小島美子	国立歴史民俗博物館名誉教授
委員	神野善治	武蔵野美術大学名誉教授
〃	田中宣一	成城大学名誉教授
〃	西角井正大	前日本民族芸能協会会長
〃	星野紘	全日本郷土芸能協会理事長
〃	山内彰	当財団前事務局長

4. 助成決定件数・助成金額

(1) 令和5年度 部門区分別 助成決定件数・金額

部門	申込件数	決定件数	助成金額
民俗芸能	84件	47件	2,075万円
民俗技術	1件	1件	25万円
合計	85件	48件	2,100万円

(注) 都道府県別の助成対象および金額等は、3頁～7頁(民俗芸能の部および民俗技術の部)をご参照願います。

(2) [ご参考] 助成件数・金額の推移 (金額単位: 万円)

年度	民俗芸能		民俗技術		合 計	
	助成件数	助成金額	助成件数	助成金額	助成件数	助成金額
平成3年	24	1,717	5	229	29	1,946
4年	29	1,960	5	190	34	2,150
5年	30	1,958	5	200	35	2,158
6年	34	2,060	6	240	40	2,300
7年	38	2,310	5	190	43	2,500
8年	41	2,550	6	250	47	2,800
9年	41	2,670	6	230	47	2,900
10年	43	2,800	4	140	47	2,940
11年	44	2,845	4	155	48	3,000
12年	43	2,740	6	260	49	3,000
13年	42	2,740	8	260	50	3,000
14年	38	2,590	10	410	48	3,000
15年	33	1,590	2	60	35	1,650
16年	31	1,525	5	125	36	1,650
17年	37	1,650	0	0	37	1,650
18年	35	1,666	2	80	37	1,746
19年	37	1,780	2	70	39	1,850
20年	39	1,810	1	40	40	1,850
21年	38	1,740	4	110	42	1,850
22年	39	1,735	3	115	42	1,850
23年	41	1,814	1	36	42	1,850
24年	48	2,122	6	185	54	2,307
25年	40	1,775	2	75	42	1,850
26年	41	1,802	3	98	44	1,900
27年	40	1,746	4	104	44	1,850
28年	41	1,800	2	50	43	1,850
29年	42	1,811	1	39	43	1,850
30年	41	1,775	2	75	43	1,850
令和元年	39	1,736	3	114	42	1,850
2年	39	1,740	3	110	42	1,850
3年	42	1,813	1	37	43	1,850
4年	43	1,820	2	80	45	1,900
5年	47	2,075	1	25	48	2,100
合計	1,280	66,265	120	4,382	1,400	70,647

5. 助成金目録の贈呈

第一次推薦者（市町村教育委員会等）の庁舎、もしくは最寄りの明治安田生命支社において贈呈式をおこなう予定。

令和5年度 地域の伝統文化 助成対象

(敬称略)

1. 民俗芸能の部 (民俗行事・民俗音楽を含む)

47件 2,075万円

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人 伝承行事・芸能・技術の名称		助成目的
岩手県	ギョウサンリュウクワミズシホトリホゾン 行山流湧水鹿踊保存会	60	幕末創始とされM30年奥州市の行山流久田鹿踊に奥義を伝授された。踊りは4組から成り、踊手は鹿8人1組と坊主(子役)で構成。太鼓を身に付け打鳴らし踊る「太鼓系鹿踊」は伝承元と当団体のみ継承。
	行山流湧水鹿踊		道具購入費の一部として
岩手県	e 大ヶ生山伏神楽保存会	14	江戸初期創始の記録がある山伏神楽。板橋神社夏祭や地区の諸行事に舞う。高度成長期に中断、S51年保存会結成し復活。七拍子のテンポの早い舞で「神明神楽」の特徴も持つ。盛岡市河東地区で唯一の神楽。
	大ヶ生山伏神楽		道具購入費として
岩手県	ヤマダノイカゲフホゾンカイ 山田大神楽保存会	30	明治初年に大槌町に学んだ伊勢系神楽。M19年から山田八幡宮秋祭に獅子舞を奉納し、大杉神社祭礼では神輿を先導。地域の祝事にも舞う。震災直後の2011年9月、山田まつりが開催され太神楽を披露した。
	山田大神楽		子ども衣装購入費の一部として
秋田県	オホリシヤンシシダノイソケンマイゾ 大森親山獅子大権現舞保存会	50	文明13年(1481)から続く神楽。尾去八幡神社春秋祭に奉納。長い中断を経てS33年保存会結成し復活。前舞7・本舞3・米汲みの舞の11舞継承。獅子頭が若水を汲み飲む所作の「米汲みの舞」は類例を見ない。
	大森親山獅子大権現舞		用具の修繕・新調費用の一部として
秋田県	ヒナナイシホトリホゾンカイセカイ 比立内獅子踊保存会比靖会	50	佐竹氏の秋田転封(1602)の折、足軽達が踊ったのが創始。お盆に比立内墓地・神社前で先祖供養する。担ぎ物・棒使い・駒踊り・獅子踊で構成。S23年から地域の青年が中心となり活動。
	比立内獅子踊		太鼓修理費の一部として
福島県	マエサノオンナホサイトトリホゾンカイ 前沢の女宝財踊保存会	50	南北朝期起源とされる宝財踊。S25年双葉町前田・水沢二地区の女性達で保存会結成。隣接の目迫地区も参加。震災後は避難先から練習場所・会場に集合。踊手10・笛2で構成。笛に合わせ掛声と共に周回する。
	前沢の女宝財踊		衣装購入費の一部として
福島県	シモバシダン 下柴獅子団	30	天正2年(1574)悪疫退散を祈願し舞ったとされる会津最古の獅子舞。太夫・雌・雄の3獅子が春彼岸に安楽寺の創始者・古橋覚太夫の墓前で舞う他、市街地で「街踊り」を披露。近隣の数ヶ村に伝授した。
	下柴の彼岸獅子		道具等購入費の一部として
茨城県	タケサキヒギシホゾンカイ 田倉三匹獅子保存会	50	江戸中期創始の三匹獅子。雨乞い等不定期に災厄払いとして演ずる。S60年つくば万博を最後に途絶えR3年に36年ぶりに復活。梵天を悪魔に見立て倒す場面が稀少。江戸後期年号記銘の桶太鼓等を継承。
	田倉の三匹獅子		太鼓等購入費の一部として
埼玉県	アサダハヤシカイ 粟生田囃子会	36	S51年市内横沼地区から伝わった山王町囃子木ノ下流のお囃子。八坂神社夏祭に他の四地区と共に山車を奉納。小太鼓・大太鼓・鉦・笛で5曲演奏し、獅子・狐・おかめ・ひょっとこが町内を練歩く。
	粟生田はやし		締め太鼓皮張替費の一部として
埼玉県	チエホゾン カマチカイ 地縁法人 上町会	55	毎年7月19・20日に秩父神社摂社・日御碕宮で除災祈願で行う子ども中心の祭「祇園祭」。花笠が美しい笠鉦と豪華絢爛な屋台8基が町内を曳行。前夜に荒川・妙見湖で神輿が川に入る「お水取り行事」は稀少。
	秩父川瀬祭		大太鼓修繕費の一部として
千葉県	サクラバヤシホゾンカイ 佐倉囃子保存会	60	江戸中期創始の葛西囃子系のお囃子。麻賀多神社秋祭に篠笛・小太鼓・大太鼓・鉦で演奏。五囃子の他仁羽・寿獅子・大黒舞等の曲や獅子舞・大黒様が加わる。戦中中断、S35年復活。神輿は享保6年(1721)製作。
	佐倉囃子		道具修理費の一部として

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人 伝承行事・芸能・技術の名称		助成目的
神奈川県	フジノカブキゾンカイ 藤野歌舞伎保存会	60	江戸後期創始で明治～昭和期に盛行した村歌舞伎。S40年を最後に長く中断、H4年復活。義太夫以外は舞台・道具作りから化粧や黒子迄を会員60人が分担。年2回の定期公演の他、不定期でイベントにも参加。
	藤野の村歌舞伎		かつら等購入費の一部として
神奈川県	サキトリゾンジャハヤシダイホゾンカイ 前鳥神社囃子太鼓保存会	17	江戸中期から前鳥神社に奉納される神田囃子系の祭囃子。大胴1・附け4・笛1・鉦1で構成。8曲を笛のリードで途切れなく演奏。里神楽の中の農耕動作の踊り「なんば」と、「印場」の曲の間奏に古い歌が入るのが特徴。
	前鳥囃子と里神楽		道具整備費の一部として
新潟県	ヤハギサトカグラホゾンカイ 矢作里神楽保存会	45	昭和初期に弥彦神社から舞衣装が下され国上村から里神楽を学んだのが創始。戦時中中断、S46年保存会結成し復活。矢作神社春祭に奉納。神話を題材にした13舞継承。組立式屋台で舞う。弥彦神社にも奉納。
	矢作里神楽舞		衣装・道具購入費の一部として
富山県	タカサゴヤマカネホウマツリホゾンカイ 高砂山願念坊祭り保存会	38	戦国後期石山合戦和睦を喜び越中の僧侶・門徒が踊ったのが創始。一時中断、H51年復活。4月に子ども達が「高砂山」を曳き地区内を巡行。道中で囃子・歌に合わせ4種踊るのが稀少。内車型曳山車は江戸後期の作で県内最古。
	高砂山願念坊祭り		平胴太鼓購入費として
石川県	オキョウツカセイネカイ 御経塚青年会	50	稲の害虫を松明の火で駆除する農耕儀礼「虫送り」。毎年7月21日直前の土曜日に佐那武神社を出て太鼓を打ち鳴らし松明を持ち御経塚史跡公園の大松明まで巡行。江戸前期の実施記録あり。市内3地区で継承。
	虫送り		桶胴太鼓補修費の一部として
山梨県	コアスミジセンゲンジンジャダイトイカ 小明見富士浅間神社太々神楽保存会	60	江戸中期から小明見富士浅間神社祭礼に奉納する神楽舞。天岩戸伝説を全12舞で格調高く演ずる。舞手が巫女の稀少な「五人ばやし」は二度中断、R元年復活、R4年地元小女子8人が披露。
	小明見富士浅間神社の神楽舞		衣装購入費の一部として
岐阜県	タマタイコトトリホゾンカイ 玉太鼓踊り保存会	70	江戸初期に京都から伝わった雨乞・豊年を願う踊り。戦中に途絶えS34年一度上演したが中断。S54年保存会結成し復活。露払・奴・笛・鉦・太鼓・福幣・音頭による道行は大行列を想起させる。
	玉太鼓踊り		DVD・ホロ製作費の一部として
静岡県	シマダカシマオトリホゾンカイ 島田鹿島踊保存会	70	延宝年間(1673～81)に春日神社を祀り疫病退散を願ったのが起源。3年に一度の大井神社「帯祭り」に白丁・三番叟・お鏡・鼓・ササの16人2組が囃子方に合わせ踊る。踊り子4役が往来を後ろ向きに進む所作が稀少。
	島田鹿島踊		三番叟衣装購入費の一部として
愛知県	トウカイマンザイホゾンカイ 東海市万歳保存会	20	鎌倉後期に名古屋の長母寺から始まった尾張万歳が寺領の当地で御殿万歳・門付万歳・三曲万歳として継承。戦前からS30年代に盛行。胡弓・三味線・鼓で歌舞伎場面を演ずる三曲万歳を中心に上演中。
	御殿万歳、門付万歳、三曲万歳		かつら復元新調費として
愛知県	ムロハチマングウシヨウサイインジンスモウホ 牟呂八幡宮神幸祭神事相撲保存会	60	室町後期が起源とされ、牟呂八幡宮神幸祭の中で神事相撲・宮座神事等を行う。明治末一時中断、大正中期に再興。御旅所で行う神事相撲は神の葉で四角い土俵を作り、力士役が神職姿で相撲を取る。
	牟呂八幡宮神幸祭・神事相撲		道具購入費の一部として
京都府	スキシダイトゾンカイサハソウガミ 周枳民芸保存会三番叟組	70	奈良期より口伝えに伝承されてきた三番叟を大宮売神社秋祭に太刀振・笹ばやし・神楽と共に毎年奉納。戦争下で中断、S42年保存会設立し復活。「翁・三番叟」を「翁の舞」として正確に伝承している。
	周枳の三番叟		衣装購入費の一部として
大阪府	カジマチョウカイ 鍛冶町町会	40	毎年9月第2土・日曜日に行う誉田八幡宮秋祭で五穀豊穡を願いだんじり4台が宮入し、宮入り後には俄を奉納。鍛冶町町会の老若男女が一つになりつながりを深め、安心安全に住める町会作りを目指す。
	誉田八幡宮だんじり祭		太鼓整備費の一部として

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人 伝承行事・芸能・技術の名称		助成目的
大阪府	ヒキショウニシマチトウフチョウカイ 日置荘西町東部町会	40	明治期から毎年萩原神社秋祭で五穀豊穡を願い氏子10町会のだんじり・神輿等の宮入を奉納。曳行中には岸和田とは少し異なるリズムで大太鼓や鐘等を打鳴らすのが特徴。
	萩原神社秋例大祭(だんじり)		道具整備費の一部として
大阪府	カマロチョウカイ 釜室町会	40	明治初期から毎年櫻井神社(上神谷八幡宮)秋祭に五穀豊穡を願い宮入奉納する釜室のだんじり。大太鼓・小太鼓・鐘・横笛の祝い節や掛声と共に曳行。太鼓の叩き方や節廻し、担い棒や肩背と呼ぶ杵付きの上地車。
	上神谷だんじり祭り		道具整備費の一部として
大阪府	ハンダインチョウチョウカイ 八田寺町町内会	40	毎年蜂田神社秋祭に五穀豊穡・家内安全・疫病退散を願い宮入奉納する8台のだんじりの一つ。町内全体で協力し合うことにより希薄な現代社会での住民の繋がりを築き上げ、皆が安心して住める町内会を目指す。
	八田寺町だんじり祭り		道具整備費の一部として
大阪府	オキタチョウカイ 大北町会	40	延享3年(1746)創始の岸和田だんじりを継承する22町会の一つ。町方・浜方・村方の「三郷の寄合」による運営を継承。地車曳行は鳴物の叩き方・やり回しでの曳き方・大屋根での踊り方等町会独自の方法あり。
	岸和田地車祭礼		太鼓皮張替費の一部として
大阪府	カオフチョウカイ 中尾生町会	40	岸和田だんじり祭で菅原神社秋祭に五穀豊穡を願いだんじりを宮入奉納する3町会の一つ。太鼓・小太鼓・笛・鐘の音と共にだんじりを曳行。R4年に3年振りに秋祭が開催された。
	岸和田だんじり祭		道具整備費の一部として
大阪府	オフチョウカイ 尾生町会	40	岸和田だんじり祭で菅原神社秋祭に五穀豊穡を願いだんじりを宮入奉納する3町会の一つ。少年団・青年団・世話人・年番・町会役員・保存会等が役割分担し活動。老健施設等では「だんじりばやし」を披露。
	岸和田だんじりばやし		道具購入費の一部として
大阪府	ウエダチョウカイ 上代町内会	40	毎年聖神社秋祭に五穀豊穡を願いだんじりを宮入奉納する信太・幸地区9町内の一つ。和泉市内のだんじりは通常2日間だが、当神社秋祭では一日かけて全町を回り、3日間行うのは珍しい。
	聖神社秋祭り(だんじり曳行)		鐘購入費の一部として
大阪府	オノイチョウチョウカイ 尾井町町会	40	毎年聖神社秋祭に五穀豊穡を願いだんじりを宮入奉納する信太・幸地区9町内の一つ。和泉市内のだんじりは通常2日間だが、当神社秋祭では一日かけて全町を回り、3日間行うのは珍しい。
	聖神社秋祭り(だんじり曳行)		長胴太鼓整備費の一部として
大阪府	トミアキチョウカイ 富秋町会	40	毎年聖神社秋祭に五穀豊穡を願いだんじりを宮入奉納する信太・幸地区9町内の一つ。和泉市内のだんじりは通常2日間だが、当神社秋祭では一日かけて全町を回り、3日間行うのは珍しい。
	聖神社秋祭り(だんじり曳行)		太鼓修繕費の一部として
島根県	アリフカガラホジシヤカイ 有福神楽保持者会	60	江戸中期創始の正調石見八調子神楽。毎年有福八幡宮秋祭に奉納。テンポが速く勇壮な神楽。曲目は32番で他では稀な曲目をいくつも継承。明治期以前の神職時代の木造面も有する。
	有福神楽		衣装購入費の一部として
島根県	イリミカガラホゾンカイ クシロシヤチュウ 石見神楽保存会 久城社中	40	明治初期創始の七調子系石見神楽。八調子の影響を受けつつ在来の六調子の雰囲気を残す。三葛神楽がかつて演じた「九刀剣」に連なる希少な演目も継承。櫛代賀姫神社中心に奉納し、市内外でも精力的に活動。
	久城神楽舞		衣装整備費の一部として
広島県	ミサカチウキョウトゲイウホゾンカイ 三良坂町郷土芸能保存会	30	明治中期創始の五穀豊穡・牛馬安全祈願の田植踊。飾り牛を先頭に胴太鼓・小太鼓・鉦・さらが田楽ばやしを奏で、緋に手甲・脚絆・菅笠姿の早乙女が田植する。一時衰退、S54年以降毎年地元小の授業で継承。
	沖江田楽		道具購入費の一部として

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人 伝承行事・芸能・技術の名称		助成目的
山口県	スミヨシジシヤ オウエサイケヨウサンカイ 住吉神社 御田植祭協賛会	30	神功皇后の故事に由来。毎年5月に住吉神社境内の神田で八乙女が田植を行う。代掻や田植準備に旧来の農業所作が残る。畦畔で田植歌に合わせ八乙女舞や早乙女舞を舞う予祝行為は古形を伝える。
	住吉神社御田植祭		衣装・道具代の一部として
香川県	ジュンカイ 十獅会	60	室町期創始とされる讃岐獅子舞の一つ。鯉宇神社秋祭に8獅子連が奉納。近年衰退、H12年十獅会を結成し継承活動を強化。出前授業や獅子教室を実施。9番目の獅子「親子獅子」を製作した。
	讃岐獅子舞		子ども油単購入費の一部として
高知県	ウケルシマチク 鶺鴒来島地区	50	宿毛沖の鶺鴒来島・春日神社で豊漁と海上安全を願い奉納する春秋の祭。伊予文化の影響を受け神輿・櫓・牛鬼の練りを行う。太鼓を載せた櫓に化粧した子供達が乗り、その周りを神輿が走り牛鬼を負う。H27年復活。
	春日神社大祭		道具修繕費の一部として
福岡県	キンサコトモヤマカサ 銀座子供山笠	30	7月第4金・土・日の3日間行う戸畑祇園大山笠行事(国指定)に合わせ、昼から夕にかけて小学生が運行する子供山笠。山車に乗る囃子方の演奏と共に曳く。市内16台中の西山笠エリア・銀座地区の山笠。
	銀座子供山笠		太鼓等購入費の一部として
福岡県	トバタギオトリハタマチコトモヤマカサ 戸畑祇園鳥旗町子供山笠	30	7月第4金・土・日の3日間行う戸畑祇園大山笠行事(国指定)に合わせ、昼及び夜に小学生が運行する子供山笠。山車に乗る囃子方の演奏と共に曳く。市内16台中の西山笠エリア・北鳥旗町地区の山笠。
	戸畑祇園鳥旗町子供山笠		太鼓・チャッパ・シノ笛購入費の一部として
福岡県	トバタギオンモトヤコトモヤマカサ 戸畑祇園元宮子供山笠	30	7月第4金・土・日の3日間行う戸畑祇園大山笠行事(国指定)に合わせ、昼から夕にかけて小学生が運行する子供山笠。山車に乗る囃子方の演奏と共に曳く。市内16台中の西山笠エリア・明治町地区の山笠。
	戸畑祇園元宮子供山笠		太鼓等購入費の一部として
佐賀県	クラウエマチオンダマイホゾンカイ 蔵上町御田舞保存会	50	江戸中期の上演記録が残る四阿屋神社秋祭に五穀豊穰を願い奉納。戦後一時中断、S51年復活。8演目継承、舞台上で謡・太鼓に合わせ順に舞う。田作りの所作を優雅に、力強く表現。謡の詞章に中世歌謡の名残あり。
	四阿屋神社の御田舞		継承資料用動画制作費の一部として
佐賀県	ホウカウラムブリュウホゾンカイ 母ヶ浦面浮立保存会	20	江戸期に始まり毎年鎮守神社秋祭に悪霊退散・五穀豊穰を祈願し奉納する面浮立。紺の法被に錨網や波を染抜き白股引姿で身振りを付け重心を落とし力強く足を踏む。勇壮で躍動的な「見せる」面浮立の代表格。
	母ヶ浦面浮立		衣装購入費として
佐賀県	シカワシホゾンカイ 南川獅子保存会	50	江戸期創始とされる琴路神社秋祭に奉納する獅子舞。雌雄一対の獅子が神輿を先導し境内で演舞。沿道の家々でも除災・招福の舞を行う。扁平でユーモラスな表情の獅子頭や刃付きの鉾を操る「剣突き」が特徴。
	琴路神社の獅子舞(南川獅子舞)		衣装購入費の一部として
熊本県	アナガウカガヲホゾンカイ 穴川夜神楽保存会	40	江戸初期から毎年1月5日に五穀豊穰・国家安寧を祈願する肥後系神楽。10座あり、夫々1~4人が穴川神社に舞を奉納。最後の鬼神の舞で参拝者が青竹の先の御幣(無病息災のお守り)を奪い合う様が特に有名。
	穴川夜神楽		神楽鈴購入費の一部として
鹿児島県	ツスキナカホセタイコトホゾンカイ 津貫中間豊祭太鼓踊保存会	50	毎年10月27日の豊祭(ホセ)の日に天御中主神社に五穀豊穰を祝い豊作感謝を込め奉納。大太鼓16・中太鼓2・鉦2・歌ウテ3の23人で構成。踊りは17種。円陣を組み鉦・太鼓と「ハヤシ」に合わせ勇壮、リズムカルに躍る。
	津貫中間豊祭太鼓踊		太鼓新調費の一部として
沖縄県	キナントウケイウホゾンカイ 喜名伝統芸能保存会	60	明治39年初演の伝統芸能組踊を継承。王朝期の仇討が題材で昭和初期まで盛行。S13年中断、S23年復活。「忠臣・護佐丸」は古曲の組数を増やし「動と静」の場面を巧みに構成。
	組踊「忠臣・護佐丸」・「長者の		記録冊子制作費の一部として

2. 民俗技術の部（伝統的製作技術・衣食住に関わる生活技術・伝統工芸を含む） 1件 25万円

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人		助成目的
	民俗文化財の名称		
熊本県	ソノダ ヒサシ	25	五木村に600年以上に亘り伝わる焼畑文化「コバ」。耕作地を変えて肥料を使わず穀物・野菜を生産する手法。常畑の水田化、米の常食化、造林による現金収入の多様化で90年代半ばで中断。R3・4年に復活させた。
	園田 久 氏		
	焼畑技術		

**【ご参考】 「国指定・国選択重要無形民俗文化財」に定められた助成先及び
「ユネスコ無形文化遺産登録」代表一覧表記載の決議がなされた助成先**

令和5年1月に文部科学省(文化庁)が新たに重要無形民俗文化財に指定した3件のうち下記の1件1団体が、当財団がこれまでに行なった助成先から該当いたしました。

また、令和4年11月30日付の報道発表「風流踊のユネスコ無形文化遺産登録(代表一覧表記載)」の中に、当財団の既助成先から「風流踊一覧」のうち2件2団体が該当しております。

保存継承に関わってこられた地元関係者の皆様のお喜びは勿論ですが、当財団にとりましても、今年も引き続き助成先から選ばれた事はたいへん嬉しいニュースです。

【重要無形民俗文化財の指定】

区分	決定年月	文化財名称	保存団体	地域	助成年度
国指定	2023年1月	尾八重神楽	尾八重神楽保存会	宮城県西都市	1999年

【ユネスコ無形文化遺産登録(代表一覧表記載)記載の決議】

文化財の名称	助成先団体名	所在地	助成年度
黒丸踊	黒丸保存会	長崎県大村市	1998年
豊前感応楽	豊前感応楽保存会	福岡県豊前市	2006年

以上

財団案内

財団の目的

明治安田クオリティオブライフ文化財団(理事長:関口憲一)は、音楽における人材育成ならびに地域の伝統文化の保存維持、および後継者育成に対する助成等を行い、もって国民生活の質的向上ならびにわが国文化の発展に寄与することを目的としています。

【財団の概要】

名 称	公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団 The MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION
設 立	平成3年(1991年)6月10日
主務官庁	内閣府
基本財産	14億8,500万円(2022年9月末日現在)
事業内容	・音楽分野における若手芸術家の人材育成に対する助成 ・民俗芸能等地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成 ・芸術文化活動に関する調査研究、出版物の刊行
事業計画	○クラシック音楽分野における若手音楽家の人材育成に対する助成 ・海外における音楽研修に対する助成 ・国内音楽学生に対する奨学援助 ○民俗芸能等地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成 ・地域の民俗芸能(含、民俗行事、民俗音楽)の保存維持、後継者育成のための助成 ・地域の民俗技術(含、伝統的製作技術、衣食住に関わる生活技術、伝統工芸)の保存維持、後継者育成のための助成
事業成果	これまでの累計助成状況(令和5年3月現在) ・音楽分野 576人10億 310万円 ・伝統文化分野 1,400件 7億 647万円
主な出捐企業	明治安田生命保険相互会社